

教科名	国語	科目名	文学基礎		
開講年次	5年次	履修区分	必履修科目	単位数	4単位
使用教科書	古典探究古文編・漢文編（筑摩書房）		文学国語（筑摩書房）		
その他教材	新精選古典文法改訂版（東京書籍）		基礎から解釈へ漢文必携（桐原書店）		

科目のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化（伝統的な言語文化を含む）に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書や古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価規準

A	知識・技能	古典の文の成分の順序や文章の構成、展開の仕方について理解を深め、作品や文章に表れている言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。古典や文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、その文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めることができる。
B	思考・判断・表現	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、自分の知見と結び付け作品の価値について考察することができる。古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。また、文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
C	主体的に学習に取り組む態度	学習の見通しをもって課題に取り組みつつ、文学や古典の力、その存在意義について粘り強く考えようとするすることができる。文学や古典を通じて学習したことを、自らの考え方、生き方に生かしていこうとすることができる。

年間計画

期	学習内容	学習内容やねらい	課題と評価観点
前期	授業開き	一年間を通して文学や物語について考えていくことを理解する。	ユニットテスト【AB】 学年末課題準備【C】
	随想①「過去との対話」 『死者の声を運ぶ小舟』	随想① 文学の力について、筆者の主張を踏まえて考える。	
	古文①「歌に思いを託す」 『伊勢物語』他	古文① 和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。	
	古文②「人と人とが織りなす世界」 『源氏物語』他	古文② 作品成立の背景や作品相互の関係も踏まえながら内容を解釈する。	
	古文③「体験を語る」 『更級日記』他	古文③ 日記文学を用いて作者の心情を読み取る。	
	小説①「物語との出会い」 『山月記』他	文学① 小説ならではの豊かな表現と語彙を学ぶ。	ユニットテスト【AB】 学年末課題準備【C】
	小説②「自己と向き合う」 『こころ』他	文学② 近代文学をもとにその時代と自己の関係を考察する。	
後期	随想②「過去との対話」 『論語—私の古典』	随想② 古典の力について、筆者の主張を踏まえて考える。	ユニットテスト【AB】 学年末課題準備【C】
	漢文①「創成と典故」「読み継がれる思想」 『莊子』『論語』他	漢文① 典故をもとに生成された言葉の真意を理解し、作品に示される人生観を読み取り、普遍的な人間性を語るそれぞれの思想や生き方について考える。	
	漢文②「言動の記録」 『史記』他	漢文② 言動の記録をたどり、人物像を捉えながら、それぞれの生き方について自身と照らし合わせて考える。	
	一年間のまとめ	学習した文学作品を基に、文学の存在意義や物語の創作について自身の考えを深める。	学年末課題【C】

教科名	年次	科目名	単位数	使用する教科書
国語	6 年次	文学B	4 単位	精選古典B新版（東京書籍）、 精選現代文B（東京書籍）

科目のねらい

文学的な文章の読解を通して、生涯にわたる社会生活に必要な言語・文学の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深める。

目標および評価基準

A	関心・意欲・態度	自らの理解や関心、知識に関連をもたせてテキストを理解するとともに、国語に関する理解や関心、知識を広げ、深めることができる。適切で多様な語彙、構文、表現技法、非言語的コミュニケーション技法を理解し、アイディア豊かにテキストを読む力や表現する力を進んで高めることができる。
B	知識・理解・技能	言語文化や、正しい文法などの言葉の決まりについての理解を深め、知識を身に付けている。さまざまな言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を理解している。作者の選択した言語、文章の構造、技法、スタイル（文体）などが受け手に与える効果を理解している。
C	話す・聞く	受け手に与える影響を認識し、目的や場に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を分析し、話したり聞き取ったりし、自分の考えを深め、発展させている。適切で多様な語彙、表現、例示、非言語的コミュニケーション技法などを用いて、意見や考え、思想や心情を述べている。
D	読む	テキストを分析し、文脈、言語、文章の構造、技法、スタイル（文体）などからの確に読み取っている。テキストから意見や考え、思想や心情を、的確に捉え、論理的な方法で整理している。テキストの価値を考察し、自分の考えを深め、発展させている。
E	書く	受け手に与える影響を認識し、相手や目的に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を分析し、適切な文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。適切で多様な語彙、表現技法、例示などを用いて、意見や考え、思想や心情を書いている。

年間計画

期	学習内容	ねらいと評価の観点
前期	歴史書 『史記』より 「鴻門之会」「四面楚歌」「項王自刎」 「吾所以有天下者何」 他	長編の漢文である『史記』の読解を通して、古代中国の人物の心情の変化について理解する。また、当時の権力の移り変わりの背景についても理解を深める。 【観点A, B, C, D】
	歴史物語 『大鏡』より 「道真の左遷」「花山天皇の出家」 「道長、伊周の競射」「肝試し」 他	歴史物語の読解を通して、古代日本の人物の心情や人間関係、権力の移り変わりの背景について理解を深める。また、複数のテキストを読解し関連付けることで、自分の考えを論理的に整理しつつ深める。 【観点A, B, D, E】
後期	現代文 「日本人の美意識」 「言語と記号」 「檸檬」 他	テキストを的確に読み取るということについて、文学や評論などの多様な文章を扱いながら考えを深める。 【観点A, B, C, D, E】

教科名	年次	科目名	単位数	使用する教科書
国語	6 年次	文学C	2 単位	精選古典B新版（東京書籍）、 精選現代文B（東京書籍）

科目のねらい

文学的な文章の読解を通して、生涯にわたる社会生活に必要な言語・文学の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深める。

目標および評価基準

A	関心・意欲・態度	自らの理解や関心、知識に関連をもたせてテキストを理解するとともに、国語に関する理解や関心、知識を広げ、深めることができる。適切で多様な語彙、構文、表現技法、非言語的コミュニケーション技法を理解し、アイディア豊かにテキストを読む力や表現する力を進んで高めることができる。
B	知識・理解・技能	言語文化や、正しい文法などの言葉の決まりについての理解を深め、知識を身に付けている。さまざまな言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を理解している。作者の選択した言語、文章の構造、技法、スタイル（文体）などが受け手に与える効果を理解している。
C	話す・聞く	受け手に与える影響を認識し、目的や場に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を分析し、話したり聞き取ったりし、自分の考えを深め、発展させている。適切で多様な語彙、表現、例示、非言語的コミュニケーション技法などを用いて、意見や考え、思想や心情を述べている。
D	読む	テキストを分析し、文脈、言語、文章の構造、技法、スタイル（文体）などから的確に読み取っている。テキストから意見や考え、思想や心情を、的確に捉え、論理的な方法で整理している。テキストの価値を考察し、自分の考えを深め、発展させている。
D	書く	受け手に与える影響を認識し、相手や目的に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）を分析し、適切な文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。適切で多様な語彙、表現技法、例示などを用いて、意見や考え、思想や心情を書いている。

年間計画

期	学習内容	ねらいと評価の観点
前期	長編の漢文読解 歴史上の人物の行動や心情について理解する 史記 1 『鴻門之会』 『四面楚歌』 歌論 『無名抄』 おもて歌のこと	長編の漢文読解を通して、古代中国の人物の心情の変化について理解する。また、当時の権力の移り変わりについて背景知識についても理解を深める。 古文については、歌論を扱う。当時の人々がどのような価値観を持っていたのかについて理解する。 総括的評価 テスト A・B・D・E

	<p>随筆 『徒然草』花は盛りに、『玉勝間』兼好法師が詞のあげつらひ</p> <p>評論 『相手依存の自己規定』</p>	<p>随筆については、テキストを読み比べ、筆者の意見に対して自分の考えを持つ。 テキストを基にした集団討論 C</p> <p>評論については、自己認識のあり方について考えを深める。</p>
後期	<p>評論 「言語と記号」</p>	<p>現代文に関しては、論の展開を意識して主張を理解し、抽象的な概念についても思考できるようにする。 総括評価テスト（予定）D</p>